

パラグアイのスペイン語における *leísmo*、*laísmo* について
— グアラニー語との言語接触の観点から —

濱口 恵利加
(欧米第一課程 英語専攻)

キーワード：パラグアイ，スペイン語，グアラニー語，*leísmo* / *laísmo*，3人称代名詞

0. はじめに

本稿は、パラグアイのスペイン語における *leísmo* / *laísmo* が現れる統語的環境、およびその頻度を考察したものである。加えて、同国ではスペイン語と並んでグアラニー語が公用語に定められている。そのため、両言語の対照研究も行い、グアラニー語¹が *leísmo* に与える影響を観察した。先行研究の和訳、本文中のグロス、斜字体、日本語訳、例文番号、表番号はことわりのない限り筆者による。*leísmo* / *laísmo* が現れたものに関しては、グロスはそれぞれ LE / LA で示す。

leísmo / *laísmo* とはスペイン語の目的格3人称代名詞(以下、「接語代名詞」²)に関する現象である。*leísmo* は人間・男性・単数の対格 *lo* が *le* で、*laísmo* は人間・女性・単数の与格 *la* が *le* で、それぞれ代用される(高垣 2007: 77)。これらの現象は以下の接語代名詞体系の変遷により起こると考えられる。

表 1: 接語代名詞対格・与格体系の変遷

a. 機能主体体系

⇒ b. 過渡的体系

⇒ c. 指示物主体体系

	単数	
	男性	女性
対格	<i>lo</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	

	単数	
	男性	女性
対格	<i>le</i> / <i>lo</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	<i>le</i>

	単数	
	男性	女性
対格	<i>le</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	<i>la</i>

(高垣 2007: 79)

高垣(2007: 78-79)によれば、a.の体系は格を明瞭に区別し、ラテンアメリカ(以下、「ラ米」)で一般に見られる。b.の体系は c.へと変遷していく過渡的体系である。c.の体系には格区別がなく、指示物の性の対立のみが意識される。男性は事物の対格でも *le* が、女性も事物の与格には *la* が用いられるようになる。

¹ トゥピ語族トゥピ・ワラニー語派トゥピ・ワラニー語群に属す。使用人口の多さでは南米先住民言語の中でケチュア語に次ぐ大言語である(細川 1992: 1140-1142)。

² スペイン語の目的格人称代名詞は、隣接する動詞と密接につながっている。以下、高垣(2007: 77)に従い「接語代名詞」と呼ぶ。

1. 先行研究

1.1 節で高垣他(2008)のラ米 5 ヶ国(メキシコ、アルゼンチン、パラグアイ、チリ、コロンビア)の *leísmo* / *laísmo* の受容率³、1.2 節で青砥(2010)の *leísmo* が起こる統語的環境、1.3 節で Palacios Alcaine(2000)より主にグアラニー語の目的格 3 人称代名詞体系について扱う。

1.1. 高垣他(2008)

調査された *leísmo* の 3 つの例文中、パラグアイの受容率が最も高かったのは以下の例文である。*le* は人間・男性・単数の直接目的語 *mi hijo* 「私の息子」(文中に明示なし)を指す。なお、調査では各国に合わせた語が用いられているが、本稿ではパラグアイの形のみ示す。

(1) Un coche que venía por la calle Palma *le*
a.ART.DEF.M.SG car.M.SG that.CONJ come.IND.IMPF.3.SG around.PREP NAME LE
atropelló y *le* mató.
run over.IND.PST.3.SG and.CONJ LE kill.IND.PST.3.SG
パルマ通りに来た 1 台の車が、彼(私の息子)をひき殺した。

(高垣他 2008: 397)

高垣他(2008: 397)によれば、ラ米全体の積極的受容率は 14%と低く、人間・男性・単数の直接目的語には *lo* を用いる傾向が強い。しかしパラグアイのみが 63%にも達しており、これは同国で特徴的に見られる *leísmo* に起因しているのかもしれないと述べている。

次に、*laísmo* は以下の 1 文のみ調査がされている。*la* は人間・女性・単数の間接目的語 *mi madre* 「私の母」(文中に明示なし)を指す。

(2) Yo *la* he dicho que se habían
I.NOM LA have.IND.PRS.1.SG say.PTCP.PST.M.SG that.CONJ PRN.REFL have.IND.IMPF.3.PL
quedado en *la* escuela.
stay.PTCP.PST.M.SG in.PREP the.ART.DEF.F.SG school.F.SG
私は彼女(自分の母親)に、彼らが学校にいたということを話した。

(高垣他 2008: 398、斜字体は原文まま)

高垣他(2008: 399)によれば、ラ米全体の *laísmo* の受容率は極めて低いが、パラグアイは 21%と比較的受容率が高い。

1.2. 青砥(2010)

青砥(2010: 56-64)より、パラグアイの *leísmo* が発生する統語的環境を以下に述べる。①～⑪の丸囲み番号は筆者による。

³ 被験者数の内訳は、メキシコ 21 人、アルゼンチンとパラグアイが各 20 人、チリとコロンビアが各 25 人の計 111 人である(Takagaki et al. 2008: 83)。

- ①文中に慣用的に *leísmo* と共起しやすい動詞⁴が存在する。
- ②情意動詞の主語が無生物の場合、接語代名詞には与格がくる傾向がある。
- ③使役構文の不定詞が他動詞の時、意味上の主語である接語代名詞には与格が来やすい。
- ④日常会話で女の人を指示する機能が定着しつつある。
- ⑤同文中に同じ指示対象の目的語と接語代名詞が現れる接語重複の文において、指示の重複する直接目的語が共起する場合に与格をとる。
- ⑥複数形の直接目的語を照応する時、複数形 *les* が *le* で代用されることがある。
- ⑦文法性を区別しない関係代名詞 *quien*(先行詞に人をとる)や疑問詞 *quién*「誰」を照応する時、与格の方が適する。
- ⑧目的および未確定の事態を表す「*para*+不定詞句」、「*para que* 節」で与格が現れやすい。
- ⑨目的以外を表す接続法(願望、要求・指示など)の文においても与格が現れる。
- ⑩動詞は直説法であるが信念とは裏腹に起こる疑念が語られる場合、与格が現れる。
- ⑪未来の事態や話し手の推量などを表す未来時制において与格が現れる。

(青砥 2010: 56-64 要約)

上記①～⑪の分類を、2.1.3 節における調査結果の考察の際に使用する。

1.3. Palacios Alcaine(2000)

Palacios Alcaine(2000)より、パラグアイの *leísmo* の特徴、およびグアラニー語の目的格 3 人称代名詞体系に関する記述を以下に要約する。

パラグアイでは、直接・間接目的語の唯一の形式として *le* に収束していく傾向にある。*leísmo* はスペイン語とグアラニー語の言語接触のある所で起こる。スペインでは格の中立化で性の区別が強化されるのみだが、パラグアイでは性・数共に *le* への統一化がみられる。

(Palacios Alcaine 2000: 123-128 要約)

表 2: グアラニー語の目的格 3 人称代名詞体系

	統語機能	グアラニー語	スペイン語
単数	直接目的語	<i>ichú-pe</i>	<i>lo, la</i>
	間接目的語	<i>ichú-pe</i>	<i>le</i>
複数	直接目的語	<i>ichú-pe (kuéra)⁵</i>	<i>los, las</i>
	間接目的語	<i>ichú-pe (kuéra)</i>	<i>les</i>

(Palacios Alcaine 2000: 139 を一部改変)

⁴ *acompañar*「一緒に行く」、*ayudar*「手伝う」、*conocer*「知っている」、*creer*「信じる」、*encontrar*「出会う」、*esperar*「待つ」、*invitar*「招待する」、*llamar*「呼ぶ」、*llevar*「運ぶ」、*matar*「殺す」、*saludar*「挨拶する」、*ver*「見る」などである(青砥 2010: 56)。

⁵ 複数を表す際 *kuéra* を後置させる方法があるが、口語では殆ど用いられない(Palacios Alcaine 2000: 139)。

表 2 より、グアラニー語の目的格 3 人称代名詞は性・数・格の区別をもたない。この特徴が、スペイン語との言語接触を通してパラグアイの *leísmo* を誘因している可能性がある。

1. 4. 先行研究の問題点

パラグアイの *leísmo* / *laísmo* を統語的・数量的に分析して示した文献は管見の限り見つかっていない。*leísmo* とグアラニー語の用例を対照し、Palacios Alcaine(2000)の述べるような言語接触の影響を考察した研究も見当たらない。

2. 調査

以下 2 種類のテキストを用い、*leísmo* / *laísmo* が現れる統語的環境と、その頻度について分析した。

[1] Krivoshein de Canese et al.(2005) *Tetãgua Remimombe'u*⁶ 「祖国の大衆物語」(全 98 ページ、うち序文等を除く本文 10-95 ページ)

[2] Roa Bastos(1987) *Yo el supremo* 「我、至上なり」(全 612 ページ、うち本文 93-607 ページ)

手順としては、まず本文から *leísmo* / *laísmo* の用例を手作業で抜き出した。そして *leísmo* / *laísmo* を判断するには、辞書およびインターネットで本来の接語代名詞の現れ方を調べて確認した。

[1]の民話には口語体の短編が 12 話収録されており、偶数ページにはスペイン語、奇数ページにはグアラニー語が記述されている。本文のうち挿絵を除き、各言語のテキストは 31 ページずつである。[1]では *leísmo* / *laísmo* の調査に加え、*leísmo* の用例と、対応するグアラニー語の用例を対照し、Palacios Alcaine(2000)の述べる言語接触の影響を観察した。

[2]の小説は、[1]と分量を合わせるため本文の冒頭 93-125 ページの 10 行目までの約 33 ページを対象とした。スペイン語のみの記述であるが、著者⁷の意図により本文中にグアラニー語の語彙や表現が頻繁に現れる。[2]では *leísmo* / *laísmo* についてのみ調査した。

2. 1. *leísmo* の調査結果

今回の調査では *leísmo* が 17 例得られた。以下で、共起した動詞等、動詞の法・時制、1.2 節で述べた青砥(2010)による統語的環境に従った分類の順に考察していく。

2. 1. 1. 共起した動詞等による分類

leísmo を共起した動詞等に従って分類すると、表 3 のようになる。

⁶ グアラニー語からスペイン語に翻訳されている。訳者の Krivoshein de Canese(1926 年生まれ)は若くしてパラグアイに帰化したチェコ人であるため、同氏の翻訳はパラグアイ国民が話すスペイン語と変わらないと考える(http://www.portalguarani.com/623_natalia_krivoshein_de_canese.html 最終閲覧日 2015/1/8)。

⁷ 著者の Roa Bastos は 1917 年パラグアイの首都アスンシオンの生まれで、幼少期を同国で過ごした(Roa Bastos 1987: 11)。

表 3: 共起した動詞等

		単独の動詞	動詞句 ⁸	使役 / 放任表現 ⁹	前置詞句 ¹⁰	命令表現	合計
全用例	[1]	39	15	7	8	3	72
	[2] ¹¹	74	0	2	0	0	76
<i>leísmo</i>	[1]	8(66.7%)	4(33.3%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
	[2]	3(60%)	0(0%)	2(40%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)
<i>leísmo</i> 計		11(64.7%)	4(23.5%)	2(11.8%)	0(0%)	0(0%)	17(100%)

leísmo は単独の動詞、「*querer*+不定詞」、「*hacer*+不定詞」と共起したものに偏っていた。紙幅の都合上、以下に単独の動詞と共起した用例を 1 例示す。

(3) No caminó mucho y le encontró a un
 NEG walk.IND.PST.3.SG much.ADV and.CONJ LE meet.IND.PST.3.SG to.PREP a.ART.INDEF.M.SG
 tigre que le dijo:
 tiger.M.SG that.CONJ him.DAT say.IND.PST.3.SG

彼(Sambo[少年の名前])は少し歩くと、彼にこう言った 1 匹のトラに出会った。

(Krivoshein de Canese et al. 2005: 76)

単独の動詞として現れたものは、*encontrar* 「出会う」/ *pegar* 「殴る」が 3 例ずつ、*escuchar* 「聴く」/ *llamar* 「呼ぶ」/ *querer* 「愛する」/ *ver* 「見る」/ *invitar* 「招待する」が 1 例ずつであった。例文(3)は *encontrar* の例文であり、*le* は直接目的語 *a un tigre* 「1 匹のトラ」を指す。

2.1.2. 法および時制による分類

leísmo と共起した動詞の法・時制に従って分類すると、表 4 のようになる。

⁸ *querer*+不定詞「～したい」、*ir a*+不定詞「～するつもりだ」、*tener que*+不定詞「～しなければならない」を含む。

⁹ *hacer*+不定詞「～させる」、*dejar*+不定詞「～させておく」を含む。

¹⁰ *para*+不定詞「～するために」、*al*+不定詞「～すると」、*hasta*+不定詞「～するまで」などを含む。

¹¹ [2]では表 3 以外の分類も現れたが、本文の分量が多いため *leísmo* が現れた分類のみ全用例数を示した。

表 4: 共起した動詞の法および時制

法		直説法					接続法	合計
時制		現在	点過去	線過去	命令	未来迂言	現在	
全用例	[1]	14	39	8	2	6	3	72
	[2] ¹²	32	26	3	0	0	1	62
leísmo	[1]	3(25%)	6(50%)	2(16.7%)	0(0%)	0(0%)	1(8.3%)	12(100%)
	[2]	3(60%)	2(40%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)
leísmo 計		6(35.3%)	8(47.1%)	2(11.8%)	0(0%)	0(0%)	1(5.9%)	17(100%)

最も多かったのは直説法点過去時制の 8 例であった。続いて、同現在時制で 6 例、同線過去時制で 2 例が現れた。[1]では、完結した出来事を表す直説法点過去時制が最も多かったが、これは民話の性質によるものであると思われる。[2]では、直説法現在時制と同点過去時制において、全用例数に比例し 3 例、2 例の leísmo が現れたと推測される。以下に、pegar が直説法点過去時制で現れた用例を示す。le は直接目的語 a Karayá[サルの名前](文中に明示なし)を指す。

(4) — lo agarró del cuello y le
him.ACC grab.IND.PST.3.SG of.PREP.+the.ART.DEF.M.SG neck.M.SG and.CONJ him.DAT
pegó mucho.
hit.IND.PST.3.SG hard.ADV

彼(Karayá[サルの名前])の首をつかみ、彼をボコボコに殴った。

(Krivoshein de Canese et al. 2005: 62)

2.1.3. 青砥(2010)の統語的環境に従った分類

1.2 節で述べた青砥(2010)の統語的環境に従って用例进行分类すると、以下のようになる。なお、2 つ以上の分類に属する用例、およびどの分類にも属さない用例がみられた。

¹² [2]では表 4 以外の時制も現れたが、本文の分量が多く leísmo が現れた分類のみ全用例数を示した。

表 5: *leísmo* の青砥(2010)の統語的環境に従った分類

統語的環境		① ¹³	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
該当例文数	[1]	5	0	0	1	5	0	0	0	1	0	0
	[2]	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0
合計		7	0	2	1	6	0	0	0	1	0	0

①の分類では、*encontrar*、*llamar*、*ver*、*invitar* の 4 つの動詞が現れた。⑤の分類に該当した用例が 6 例みられたため、青砥(2010)が述べるように接語重複の文では *leísmo* が起こりやすいということが確認できた。③の分類に関しては、[2]で現れた 2 例ともに不定詞として他動詞が現れたことから、青砥(2010)の記述どおり使役構文では他動詞と *leísmo* が共起しやすいと推測される。以下に、⑤の接語重複の例文を 1 例示す。*le* と指示対象が同一である直接目的語 *una piedra-bezoar* 「1 個の石」を下線で表す。

(5) *Le encontraron en la entraña una it.DAT find.IND.PST.3.PL in.PREP the.ART.DEF.F.SG core.F.SG a.ART.INDEF.F.SG piedra-bezoar del tamaño de una toronja. stomach stone.F.SG of.PREP.+the.ART.DEF.M.SG size.M.SG of.PREP a.ART.INDEF.F.SG grapefruit.F.SG*
 (法医学者らは牛の)内臓の中に、グレープフルーツ大の胃石を見つけた。
 (Roa Bastos 1987: 98)

2.2. *laísmo* の調査結果

今回の調査では、いずれの資料からも *laísmo* の用例を得ることができなかった。

2.3. グアラニー語の調査結果

leísmo の用例と、対応するグアラニー語の本文を対照した結果、2 例において目的格 3 人称代名詞(*i*)*chupe* が現れた。ただし実際に *leísmo* の部分に該当したものは以下の 1 例のみであった。

(6) ... *jaguarete mbohapyha ho-³u-sé-va ichupe.*
jaguar third 3.SG-eat-VOL-REL to he
 彼を食べたいと思っていた 3 番目のトラ
 (Krivoshein de Canese et al. 2005: 79)

この *ichupe* については、対応する *leísmo* の用例では直接目的語を指示するのに *le* が現れていた。一方、*ichupe* が現れたもう 1 つの用例に関しては、対応するスペイン語の用例では

¹³ 青砥(2010)が *leísmo* と共起しやすいとしている 12 の動詞のみを分類基準とした(1.2 節の脚注 7 参照)。他にどのような動詞が共起しやすいのか、筆者は判断しかねるためである。

間接目的語を指示する *le* として現れていた。従って、用例は少ないが「グアラニー語の目的格 3 人称代名詞体系は格をもたない」とする Palacios Alcaine(2000)の記述の裏付けができたと考える。

3. まとめと今後の課題

今回の調査では、少ない用例数からではあるが、*leísmo* と共起しやすい動詞等、法・時制、*leísmo* が現れやすい統語的環境およびその頻度のある程度提示することができた。特に、「*querer*+不定詞」、不定詞に他動詞をとる使役構文、および接語重複といった環境において、*leísmo* が現れやすいという結果が得られた。グアラニー語の *ichú-pe* に関しては、スペイン語の用例では直接 / 間接目的語として *le* が現れていたことから、この「格をもたない」という特徴がパラグアイの *leísmo* に影響を及ぼしている可能性がある。

青砥(2010)などは「*leísmo* は口語に多い」と指摘しているため、今後は実際の会話やテレビドラマなどを用いて、より多くの用例を分析していくことが必要である。今回あまり扱わなかった、指示対象の有生性や数などといった点にも着目し、実際にパラグアイでは *leísmo* がどの程度進んでいるのかを調査していきたい。今回用例が得られなかった *laísmo* に関しても、その傾向を掴めるように調査していく余地がある。

略号一覧 1, 3(first, third person): 1, 3 人称 / ADV(adverb): 副詞 / ART(article): 冠詞 / CONJ(conjunction): 接続詞 / DAT(dative): 与格 / DEF(definite): 定 / F(feminine): 女性 / IMPF(imperfect): 未完了 / IND(indicative): 直説法 / INDEF(indefinite): 不定 / LA(*laísmo*) / LE(*leísmo*) / M(masculine): 男性 / NAME(proper name): 固有名詞 / NEG(negative): 否定 / NOM(nominative): 主格 / PL(plural): 複数 / PREP(preposition): 前置詞 / PRN(pronoun): 代名詞 / PRS(present): 現在 / PST(past): 過去 / PTCP(participle): 分詞 / REFL(reflexive): 再帰 / REL(relative): 関係詞 / SG(singular): 単数 VOL(volitive): 意志 / -: 形態素境界

参考文献 青砥清一 (2010) 「パラグアイにおけるレイスモについて」『神田外語大学紀要』22: 53-72. / 高垣敏博・上田博人・宮本正美・福嶋教隆・ルイズ・ティノコ, A. (2008) 「研究報告 2 メキシコおよび南米 4 カ国における調査結果—スペイン調査結果との比較—」『地理的変異に基づくスペイン語の統語研究』385-412. / 高垣敏博 (2007) 「スペイン語統語現象の地理的バリエーションについて—スペインでの調査から—」『スペイン語学研究』22: 69-86. / 田島久歳・武田和久 (2011) 『エリア・スタディーズ 86 パラグアイを知るための 50 章』東京: 明石書店 / 細川弘明 (1992) 「ワラニー語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第 4 巻 世界言語編(下-2)』1140-1142. Palacios Alcaine, Azucena (2000) “El sistema pronominal del español paraguayo: un caso de contacto de lenguas.”, en J. Calvo Pérez (ed.), *Teoría y práctica del contacto: el español de América en el candelero*. 122-143. Frankfurt-Madrid: Vervuert-Iberoamericana. / Takagaki, Toshihiro et al. (2008) *Encuesta sobre problemas sintácticos de la lengua española (2)*. Tokyo. 調査資料 Krivoshein de Canese, Natalia et al. (2005) *Tetagua Remimombe'u*. Paraguay: Asunción. / Roa Bastos, Augusto (1987) *Yo el supremo*. Madrid: Cátedra.

インターネット上の資料 Krivoshein de Canese のプロフィール

http://www.portalguarani.com/623_natalia_krivoshein_de_canese.html (最終閲覧日 2015/1/8)